

先進医療の実績報告について

中医協 総－１－１
 ８ . １ . １ ４

先－５－１
 ７ . １ ２ . ４

令和7年度（令和6年7月1日～令和7年6月30日）実績報告より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和7年6月30日現在）	26種類	47種類	73種類
② 実施医療機関数（令和7年6月30日現在）	456施設※1	163施設※1	542施設※2
③ 全患者数	210,079人	1,074人	211,153人
④ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約949.6億円	約7.8億円	約957.4億円
⑤ 先進医療費用の総額	約121.8億円	約4.7億円	約126.5億円
⑥ 総金額（④＋⑤）	約1071.4億円	約12.5億円	約1084.0億円
⑦ 全医療費のうち先進医療分の割合（⑤／⑥）	11.4%	37.5%	11.7%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療と第3項先進医療の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

※3 ④～⑥の費用については小数点2桁以下を四捨五入している。

先進医療の実績報告について

令和7年度（令和6年7月1日～令和7年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和6年6月30日現在）	27種類	49種類	76種類
② 新規承認技術数	2種類	5種類	7種類
③ 保険収載技術数	2種類	0種類	2種類
④ 実施取り下げ技術数	－	7種類	7種類
⑤ 削除技術数	1種類	－	1種類
⑥ 先進医療技術数（令和7年6月30日現在）	26種類	47種類	73種類
⑦ 総括報告書受理数	－	6種類	6種類

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用療養 費の総額 (保険診療分)	先進医療及び 旧高度先進医 療の総額	全医療費のうち先進 医療及び旧高度先 進医療分の割合
令和3年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R2.7.1～R3.6.30 (12ヵ月)	83	267施設	5,843人	約103億円	約41億円	約62億円	60.2%
令和4年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R3.7.1～R4.6.30 (12ヵ月)	83	428施設	26,556人	約151億円	約85億円	約67億円	44.1%
令和5年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R4.7.1～R5.6.30 (12ヵ月)	81	477施設	144,281人	約765億円	約664億円	約101億円	13.2%
令和6年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R5.7.1～R6.6.30 (12ヵ月)	76	449施設	177,269人	約928億円	約809億円	約120億円	12.9%
令和7年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R6.7.1～R7.6.30 (12ヵ月)	73	542施設	211,153人	約1084億円	約957億円	約127億円	11.7%

※1 令和4年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 令和6年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

【先進医療A】
令和7年6月30日時点における先進医療に係る費用
令和7年度実績報告(令和6年7月1日～令和7年6月30日)

先　－　5　－　1
(参考資料5－1)
7　.　1　2　.　4

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平　均 入院期間 (日)	年　間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
1	1	陽子線治療	平13.7.1	2,619,715,378	2,055,081,610	18.4	739	20
2	2	重粒子線治療	平15.11.1	1,008,010,051	966,404,000	4.0	303	7
3	3	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	平16.12.1	413,900	120,000	※	4	2
4	5	ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	平26.1.1	300,516,861	31,541,470	3.3	1,031	43
5	6	細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	平26.1.1	142,987,849	8,439,203	7.9	202	17
6	7	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	平27.5.1	356,761,385	1,137,126	89.3	32	3
7	8	CYP2D6遺伝子多型検査	平27.9.1	14,528,540	1,950,600	※	4	3
8	9	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイルス検査	平30.1.1	－	－	－	0	－
9	12	内視鏡的憩室隔壁切開術	令2.7.1	2,328,752	383,742	6.0	5	4
10	13	内視鏡的胃局所切除術	令2.9.1	37,664,736	11,817,434	8.6	53	12
11	14	子宮内膜刺激術	令4.4.1	11,797,900,735	1,029,152,934	0.0	28,090	203
12	15	タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	令4.4.1	52,551,306,072	4,113,830,165	0.0	98,871	307
13	16	子宮内膜擦過術	令4.4.1	997,793,516	61,104,407	0.0	3,506	122
14	17	ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術	令4.4.1	9,001,580,168	517,366,687	0.1	16,278	188
15	18	子宮内膜受容能検査1	令4.4.1	2,280,696,413	731,816,231	0.0	5,406	238
16	19	子宮内細菌叢検査1	令4.4.1	2,996,608,472	456,429,634	0.0	6,635	207
17	20	強拡大顕微鏡を用いた形態学的精子選択術	令4.4.1	6,439,383,372	350,643,000	0.1	17,209	90
18	21	二段階胚移植術	令4.5.1	1,672,450,301	290,339,008	0.0	2,494	118
19	22	子宮内細菌叢検査2	令4.7.1	5,393,448,239	656,604,886	0.1	12,429	201
20	23	子宮内膜受容能検査2	令4.8.1	907,929,004	219,434,291	0.0	1,728	67
21	24	流死産検体を用いた遺伝子検査	令4.12.1	21,725,710	16,469,030	0.2	161	23
22	25	膜構造を用いた生理学的精子選択術	令5.3.1	8,550,371,174	642,681,751	0.1	14,845	220
23	26	血中循環腫瘍DNAを用いた微小残存病変量の測定	令6.3.1	2,617,543	1,094,650	12.0	3	1
24	27	子宮腺筋症病巣除去術	令6.4.1	43,072,548	15,323,700	11.0	43	6
25	28	腹腔鏡下卵巣悪性腫瘍手術	令7.3.1	3,719,266	1,885,896	9.7	3	1
26	29	抗ネオセルフβ2グリコプロテインI複合体抗体検査	令7.6.1	254,160	146,300	※	5	1
合　　計				107,143,784,145	12,181,197,755		210,079	2,104

※入院例なし

【先進医療B】
令和7年6月30日時点における先進医療に係る費用
 令和7年度実績報告(令和6年7月1日～令和7年6月30日)

先 5 1
 (参 考 資 料 5 - 2)
 7 1 2 4

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平 均 入院期間 (日)	年 間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
1	1	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	平25.8.1	3,661,365	3,001,195	※	2	2
2	2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	平26.1.1	-	-	-	0	-
3	5	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	平28.1.1	-	-	-	0	-
4	7	ゲムシタピン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	平28.10.1	-	-	-	0	-
5	8	術後のカベシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸臓がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平29.4.1	297,155	178,900	※	1	1
6	9	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	平29.4.1	22,587,233	6,158,735	7.6	24	9
7	10(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(陽子線治療を実施する施設)	平29.6.1	3,570,360	3,200,000	4.5	2	2
8	10(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(外科的治療を実施する施設)	平29.6.1	-	-	-	0	-
9	12	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平30.2.1	14,973,270	231,778	0.1	190	27
10	14	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	平31.2.1	579,365	371,425	※	7	2
11	15	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	平31.3.1	4,201,502	4,104,692	※	6	1
12	16	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	平31.4.1	5,582,424	4,045,186	23.0	1	1
13	17	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	令1.7.1	-	-	-	0	-
14	18	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	令1.8.1	4,172,320	2,891,430	7.3	3	1
15	19	ブロープ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	令1.11.1	238,894	159,894	※	2	1
16	20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	令2.1.1	-	-	-	0	-
17	21	イマチニブ経口投与及びベムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.2.1	18,080,171	15,427,431	2.3	9	5
18	24	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	令2.3.1	262,647,637	214,690,462	8.5	33	10

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平均 入院期間 (日)	年間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
19	26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.6.1	-	-	-	0	-
20	27	遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	令2.11.1	106,111,473	28,467,264	21.1	57	12
21	28	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	令3.1.1	6,193,460	6,188,220	※	1	1
22	29	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	令3.2.1	-	-	-	0	-
23	30	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	令3.3.1	21,361,042	92,002	53.0	2	2
24	31	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、 TENT上に位置するものに限る。)	令3.4.1	18,927,049	18,549,469	※	2	2
25	32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	令3.7.1	-	-	-	0	-
26	33	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がん)であって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	令3.9.1	30,449,960	20,618,000	43.1	7	3
27	34	テネクトプレーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	令3.9.1	133,791,964	5,099,256	25.6	49	14
28	35	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	令3.12.1	39,893,448	137,280	1.6	196	21
29	36	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	令4.4.1	2,408,573	2,008,463	10.0	1	1
30	37	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	令4.4.1	75,792,860	93,382	19.8	107	3
31	38	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.5.1	43,024,833	21,558,995	6.4	127	19
32	39	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.5.1	5,979,390	96,350	46.0	1	1
33	40	自家臍島移植術 慢性膵炎(疼痛を伴うものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.7.1	2,458,298	265,368	28.0	1	1
34	42	ネシツムマブ静脈内投与療法 切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。)	令4.9.1	171,560	49,630	※	1	1
35	43	生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	令4.9.1	33,744,505	7,914,405	44.0	3	1
36	44	術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	令4.10.1	59,142,001	24,932,037	5.1	53	23
37	45	自家濃縮骨髄液局所注入療法 特発性大腿骨頭壊死症(非圧潰病期に限る。)	令4.12.1	20,794,070	6,190,490	7.8	17	4
38	47	集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	令5.2.1	46,692,736	34,101,990	3.0	51	2

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平均 入院期間 (日)	年間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
40	49	生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	令5.7.1	21,203,117	10,699,900	33.3	4	2
41	50	タミバロテン経口投与及びベムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 切除が不可能な膵臓がん(二種類の従来の治療法に抵抗性を有するもの又は薬物療法が困難なものに限る。)	令6.4.1	8,923,381	6,067,922	3.8	6	1
42	51	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	令6.5.1	26,373,438	18,125,000	3.2	33	7
43	52	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道表在がん	令6.5.1	1,181,930	822,198	1.5	4	3
44	53	脂肪組織由来の多系統前駆細胞を用いた歯周組織再生療法 重度歯周炎(従来の歯周組織再生療法ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	令6.6.1	236,421	142,360	※	4	1
45	54	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 包括的高度慢性下肢虚血(閉塞性動脈硬化症を伴うものに限る。)	令6.7.1	-	-	-	0	-
46	55	アナモレリン塩酸塩経口投与 体重減少(食道がんに対する食道全摘胃管再建術又は胃がんに対する噴門側胃切除術若しくは胃全摘術を実施したものに限る。)	令7.2.1	193,183,632	1,604,991	21.1	64	6
47	56	脊髄腫瘍手術 脊髄腫瘍(胎児期の患者に係るものに限る。)	令7.3.1	13,225,178	1,527,000	32.0	3	1
48	57	着床前胚異数性検査2 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。))が染色体構造異常を持つことが	令7.4.1	-	-	-	0	-
49	58	ギルテリチニブ経口投与療法 進行再発非小細胞肺癌(ロルラチニブ経口投与療法が不耐容であるもの又はロルラチニブ経口投与療法に抵抗性を有するものであって、ALK融合遺伝子陽性のものに限る。)	令7.5.1	-	-	-	0	-
合 計				1,251,856,015	469,813,100		1,074	194

※入院例なし

【先進医療B】

令和7年6月30日時点における先進医療の

終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

先 ー 5 ー 1
(参 考 資 料 5 ー 3)
7 . 1 2 . 4

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日 (※1)	計画時患者数 (※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数 (令和6年7月～令和7年6月までの実績) (再掲)
1	1	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	平25. 8. 1	令8. 3. 18	38	38	17	2
2	2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	平26. 1. 1	令8. 5. 25	225	187	12	－
3	5	ハイバードライト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	富山大学附属病院	平28. 1. 1	令8. 12. 31	40	31	9	－
4	7	ゲムタシン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	東京大学医学部附属病院	平28. 20. 1	【導入相試験】 令2. 3. 9 【探索相試験】 令6. 9. 9予定	【導入相試験】 6～18例 【探索相試験】	5	－	－
5	8	術後のカベタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸臓がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平29. 4. 1	令15. 5. 8	115	115	21	1
6	9	S－1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	関西医科大学附属病院	平29. 4. 1	令9. 5. 31	180	164	30	24
7	10(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(陽子線治療を実施する施設)	国立がん研究センター東病院	平29. 6. 1	令13. 12. 19	72	72	7	2
8	10(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(外科的治療を実施する施設)	国立がん研究センター東病院	平29. 6. 1	令11. 12. 19	248	319	18	－
9	12	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平30. 2. 1	令11. 11. 30	880	882	35	190
10	14	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	平31. 2. 1	令14. 6. 30	42	0	6	7
11	15	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	国立精神・神経医療研究センター病院	平31. 3. 1	令11. 3. 31	96	38	2	6
12	16	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位腔骨骨切り術の適応となるものに限る。)	東海大学医学部付属病院	平31. 4. 1	令11. 12. 31	20	21	0	1
13	17	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	医療法人沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院	令1. 7. 1	令14. 6. 30	16～20	2	0	－
14	18	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild－Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	令1. 8. 1	令9. 7. 23	45	14	0	3
15	19	ブロープ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	国立がん研究センター中央病院	令1. 11. 1	令7. 12. 17	250	250	4	2
16	20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令2. 1. 1	令8. 3. 31	9～12	9	2	－
17	21	イマチニブ経口投与及びベムプロリスマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令2. 2. 1	令8. 10. 31	22	18	6	9
18	24	周術期デュラルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令2. 3. 1	令13. 8. 31	79	78	19	33
19	26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2. 6. 1	令8. 12. 31	20	20	0	－
20	27	遺伝子組換え活性型血漿凝固Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2. 11. 1	令13. 3. 31	400	276	14	57
21	28	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令3. 1. 1	令8. 12. 31	14	4	0	1
22	29	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3. 2. 1	令7. 10. 31	22	13	4	－
23	30	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3. 3. 1	令10. 3. 31	24	10	9	2
24	31	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、 Tent 上に位置するものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令3. 4. 1	令9. 3. 31	10	10	3	2

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日 (※1)	計画時患者数 (※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数 (令和6年7月～令和7年6月までの実績) (再掲)
25	32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	横浜市立大学附属病院	令3.7.1	令11.7.18	12	2	4	-
26	33	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令3.9.1	令12.4.30	49	37	5	7
27	34	テネクトプラゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令3.9.1	令9.3.31	226	225	16	49
28	35	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	京都府立医科大学附属病院	令3.12.1	令10.9.30	200	202	20	196
29	36	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	東京医科大学病院	令4.4.1	令14.3.31	50	3	1	1
30	37	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令4.4.1	令9.6.30	766	766	2	107
31	38	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立精神・神経医療研究センター病院	令4.5.1	令9.3.31	200	143	21	127
32	39	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	令4.5.1	令10.3.31	25	1	0	1
33	40	自家脾臓移植術 慢性脾炎(疼痛を伴うものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立国際医療研究センター病院	令4.7.1	令11.3.31	10	4	3	1
34	42	ネシツマブ静脈内投与療法 切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。)	名古屋大学医学部附属病院	令4.9.1	令8.3.31	22	22	8	1
35	43	生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	熊本大学病院	令4.9.1	令13.8.31	20	8	9	3
36	44	術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブーバクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な脾臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	東北大学病院	令4.10.1	令12.1.4	400	229	27	53
37	45	自家濃縮骨髄液局所注入療法 特発性大腿骨頭壊死症(非圧潰病期に限る。)	順天堂大学医学部附属順天堂医院	令4.12.1	令11.3.31	34	16	3	17
38	47	集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	東海大学医学部付属病院	令5.2.1	令13.11.30	310	84	1	51
39	49	生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	京都大学医学部附属病院	令5.7.1	令14.9.24	23	5	9	4
40	50	タミバロテン経口投与及びベムプロシズマブ静脈内投与の併用療法 切除が不可能な脾臓がん(二種類の従来の治療法に抵抗性を有するもの又は薬物療法が困難なものに限る。)	名古屋大学医学部附属病院	令6.4.1	令8.12.31	12	7	0	6
41	51	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	令6.5.1	令9.10.31	65	36	7	33
42	52	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道表在がん	北海道大学病院	令6.5.1	令10.4.30	54	4	5	4
43	53	脂肪組織由来の多系統前駆細胞を用いた歯周組織再生療法 重度歯周炎(従来の歯周組織再生療法ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	大阪大学歯学部附属病院	令6.6.1	令11.3.31	30	4	0	4
44	54	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 包括的高度慢性下肢虚血(閉塞性動脈硬化症を伴うものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	令6.7.1	令11.12.31	66	0	3	-
45	55	アナモレリン塩酸塩経口投与 体重減少(食道がんに対する食道全摘胃管再建術又は胃がんに対する噴門側胃切除術若しくは胃全摘術を実施したものに限る。)	大阪大学歯学部附属病院	令7.2.1	令9.9.30	160	69	2	64
46	56	脊髄髄膜瘤手術 脊髄髄膜瘤(胎児期の患者に係るものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	令7.3.1	令10.10.31	10	3	0	3
47	57	着床前胚異数性検査2 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。)が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)	徳島大学病院	令7.4.1	令10.3.31	383	0	3	-
48	58	ギルテリチニブ経口投与療法 進行再発非小細胞肺癌がん(ロルラチニブ経口投与療法が不耐容であるもの又はロルラチニブ経口投与療法に抵抗性を有するものであって、ALK融合遺伝子陽性のものに限る。)	岡山大学病院	令7.5.1	令11.4.30	14	0	0	-

※1 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(令和7年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

【先進医療A】
1年間(令和6年7月1日～令和7年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

先	－	5	－	2
7	.	1	2	4

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月ま での実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
9	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイル ス検査	埼玉医科大学病院	対象となるインフルエンザ患者の流行が小規模にとどまり、本検査の適応となる入院患者、もしくは合併症を伴う患者が皆無であった。さらに、新型コロナウイルスの流行がまだ継続しており、新型コロナウイルスを含む多項目同時核酸検査(FilmArray)によるインフルエンザウイルスの同時検出が汎用されていることから、本検査のニーズは限定的であったと考える。	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、インフルエンザの流行について、いまま予測が困難な状況である。引き続き、いつでも診療ニーズに対応できるよう、体制維持に努めたと考えている。	0件
		浜松医療センター	スティックスバイオテックから診断試薬としてSGNP nCoV/Flu PCR 検出キットが発売されたため。	先進医療としての評価は不要と考えられ、SGNP nCoV/Flu PCR 検出キットへの移行が検討される。	
		医療法人松寿会 天保山内科	新型コロナの流行が継続し、またインフルエンザとの同時感染の疑いがあったときは、抗原検査でなんとか乗り切った。患者数が多く、時間的制約があったためインフルエンザだけをPCRで測定して確定させる時間的余裕がなかったため、院内での検査を行わなかった。	唾液を用いたインフルエンザAとBの体外診断薬はまだ国の認可を受けたものはないが、インフルエンザA型とB型および新型コロナを同時に検査する認可を受けたキットが存在するので、新型コロナ禍が収まるまではこの認可キットを用いて検査を行う予定である。今後新型コロナの検査が必要なく、インフルエンザを唾液を検体として検査する必要が生じたときは、この検査法を使用する予定である。	
		鹿児島大学病院	インフルエンザの流行はあったが、COVID-19の鑑別を要さないインフルエンザ疑い入院患者がなく検査の実施事例がなかったため	今シーズン以降、流行に応じて実施する予定	

【先進医療B】
1年間(令和6年7月1日～令和7年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	本試験は2020年5月に症例登録期間が終了しているため。	該当しない。	0件
5	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	国立大学法人富山大学医学 部附属病院	本報告期間において、当院の「保険外併用療養費の対象患者」は治 療終了などの理由によりいない。	当院では保険外併用療養費の対象患者の治療をすべて終了し、現 在追跡期間中である。	7件
7	ゲムシタビン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及 びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵 臓がん	東京大学医学部附属病院	すでに最終登録症例の後観察期間が完了していたため	総括報告書を提出予定	1件
17	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下 肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するも のであって、維持透析療養を行っているものに限る。)	湘南鎌倉総合病院	2020年8月にLDLアファレスス治療を適用として直接灌流型吸着器(レ オカーナ)が承認された。この対象患者の多くは重症下肢虚血の細胞 移植治療(先進医療B)と重なる。直接灌流型吸着器による治療の有 効性については、試験等で得られた良好なデータにより高い期待が寄 せられている。さらに、直接灌流型吸着器による治療は保険が適用で きることから、主に患者の経済的負担の点で医師、患者とも選択しや すい。こうした理由により現在は、直接灌流型吸着器による治療が優 先的に選択されている。	当該先進医療技術は、直接灌流型吸着器による治療が奏効しな かった患者に対しても適用となる。現時点で直接灌流型吸着器によ る治療の効果判定をしている段階の患者が複数名いるため、今後 症例は増えることが予想される。 当該先進医療技術について、第175回先進医療技術審査部会にて 研究期間の延長について承認を得た。	1件
20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活 動による膀胱機能障害(5歳以上十八歳未満の患者に係るも のに限る。)	地方独立行政法人東京都立 病院機構 東京都立小児総 合医療センター	症例登録期間終了となったため	現在、総括報告書作成中である。	0件

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	登録期間が終了した為該当なし		0件
29	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法	国立がん研究センター中央病院	症例登録が終了したため		1件
32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	公立大学法人 横浜国立大学附属病院	1例の登録を行ったが、全身精査の結果、治療に適さないと判断した。その他に本試験に適する症例がみつからなかった。	協力機関に登録を促すとともに、様々な医療機関に紹介を呼びかけていく。	0件
54	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 包括的高度慢性下肢虚血(閉塞性動脈硬化症を伴うものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	本研究の対象患者と類似する患者が対象の治療を実施中であり、この影響を強く受けたことが主な原因と考えられた。また、対象疾患は気温の低い季節に症状等が増悪する傾向にあるが、2024年は記録的な暖冬であったことも影響したと考えられた。	当該治療の症例登録期間の終期は2026年3月であり、症例登録遅延の主な原因は徐々に取り除かれると考える。 症例登録促進策としては、症例スクリーニングや関連病院への患者紹介依頼を強化している。特に、学会等の場を活用して対象患者を多く抱える医療機関や専門医との接触機会を増やし、対象症例の掘り起こしを行い、症例集積に繋げていく。	-
57	着床前胚異数性検査2 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。))が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)	徳島大学病院	施設内での最終承認など、必要な手続きと準備体制の最終確認に時間を要したため実施に至っていない。	準備が整ったため、今後速やかに開始する予定。	-

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和5年7月～令和6年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
58	ギルテリチニブ経口投与療法	岡山大学病院	本研究の告示はR7.5.1であり、今回の報告期間内では実施期間が2か月と短いため。	今後も継続して関連施設や関連学会に積極的に周知を行い、該当患者の集積を図る。	—

※「—」は昨年度未実施の医療技術